

バンコク日本人学校

平成 25 年度派遣
教諭 塩野 光洋

1 タイ王国の概要

(1) 歴史

現在のタイ王国の辺りにタイ族の国ができたのは、13世紀ごろです。それ以前のタイ族は、紀元前から中国の四川省や雲南省に部族国家を形成し、散在していたといわれています。彼らは稲作に適した土地を求めて南下し始め、興亡を繰り返しながら1238年にスコタイ王国が建国されたのがタイ民族の統一国家としては初めてとなります。

以降、アユタヤ、トンブリを経てラッターナーコーシン（バンコク）王朝へと続きます。現在の第9代プーミポン・アドゥンヤデート王（ラーマ9世）に対する国民の信頼は厚く、国王を元首とする安定した政治が続いています。

(2) 政治

前述のように元首は国王となっていますが実質的な最高指導者は、国家平和秩序評議会（NCPO）議長のプラユット将軍です。国家平和秩序評議会は、2014年5月22日の軍事クーデターにより全権を掌握した軍事政権が創設した組織で、評議会議長が首相を兼ね、行政権をもつ内閣や立法権をもつ国家立法会議を上回る権限を保持しており、司法権をもつ憲法裁判所に対しても政治的影響力を行使しています。クーデターで廃止した国民議会（上下院）に代わり国家立法会議が設置されましたが、過半数の議員を国軍の軍人や退役軍人が占めている状況です。



2 バンコク日本人学校の概要

(1) 沿革

バンコク日本人学校は、大正15年（1926年）創立の盤谷日本尋常小学校を前身とする、世界一歴史のある学校です。第二次世界大戦のため一時閉校となりましたが、昭和31年（1956年）にサラディーンの本国大使館内に「在タイ日本国大使館附属日本語講習会」として28人の子どもたちと4名の教師により改めて開設されました。その後、反日感情の高まりなど様々な経緯から、泰日協会の協力を得て、昭和49年（1974年）に現在の「泰日協会学校」としてタイ国政府から正式に義務教育学校としての認可を受けました。

平成28年度は児童・生徒数2703名、教職員223名でのスタートとなっています。

(2) 学校教育目標

- 思いやりのある子（徳育）
- 創造性を発揮し、積極的に学ぶ子（知育）
- 心身の健康をつくる子（健康）
- 国際性豊かな子（国際性）



(3) 教育課程

- ・構成（平成27年度）

小学部74学級（特別支援3学級を含む）、中学部18学級（特別支援学級は未設置）

- ・タイ語、英会話

タイ国教育省の指導により、小学部1年～中学部3年まで週1時間のタイ語の授業が義務付けられています。本校タイ語講師によるオリジナルテキストにより学習を進めています。

また、小学部3年以上で英語のネイティブスピーカーと日本人教師によるTTの英会話の指導を行っています。テキストは平成28年度より学校独自のものを使用しています。

- ・水泳指導

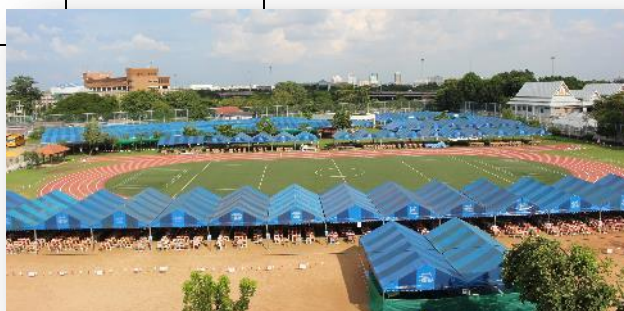
常夏の気候を生かし、年間を通して水泳指導を行っています。担任または教科担当と、水泳コーチが指導に当たり、小学部5年の臨海学校では学習の成果を発揮する場として海での遠泳（500m程度）を実施しています。

- ・各学年の取組（主に校外学習）

学年	小1	小2	小3	小4	小5	小6
行事	ドゥシット動物園 ラム9世公園	サファリワールド ルンピニ公園	マックスバリュ 味の素工場	バンケン浄水場 プラネタリウム	チャーム臨海学校 トヨタ自動車工場	チェンマイ修学旅行
学年	中1	中2	中3	なかよし		
行事	アユタヤ 職業体験	ムアンポーラン シンガポール		パン作り体験		

- ・運動会、体育祭

平成26年度より児童生徒数の増加に対応する形で、中小別日程での開催となりました。例年、雨季が明けると10月下旬から11月上旬の実施としています。



- ・交流学习会

全学年で発達段階に応じ、現地の小学校や中学校の協力をいただきながら、交流学习会を実施しています。隔年で本校と相手校を交互に会場とし、午前中の活動から弁当の時間までをともに過ごし、文化やスポーツ交流をすることで友好を深めるとともに、日頃のタイ語学習の成果を発揮する場ともなっています。



(4) 職員研修

- ・学年、教科研究部会

平成27年度までは、小学部1～5年は学年単位、小学部6年～中学部3年までは教科を単位とした部会を設置し、全体研究テーマを基に副題を設定して研修を行っています。各学年で全体研修に提案する研究授業だけでなく、年間を通して当該教科を中心に実践的な研究を重ねています。

・学校採用教員研修

本校の日本人教員の実に半数を占める学校採用教員については、上記課題研究とは別に研修の場を設けています。対象教員に定期的に行われる研修はもちろん、文部科学省派遣教員と育成ペア（トリオの場合もあり）を組み、学級経営、教科指導、保護者への対応など日常業務全般について指導助言を受けられるようになっています。



・職員宿泊研修

在外教育施設の利点を存分に生かせる研修として、毎年夏季休業中に宿泊研修が実施されています。内容は、現地の小中学校での授業実践と訪問地域の臨地研修です。

現地校での授業では、事前の实地踏査、打合せで相手校の意向も伺いながら、現地の子どもたちに楽しく日本文化にふれていただくことをめあてに、各教員が得意分野を生かした実践を行います。例年、日本語や習字、着物、折り紙、野球や相撲など見るだけでなく体験する活動を取り入れた実践が見られ、相手校の子どもたちだけでなく先生方にも好評をいただいています。

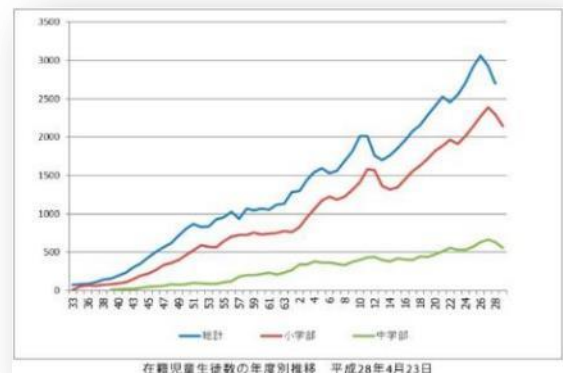


(5) 特色と課題

本校を紹介する際に、最初に話題となる特色はやはりここ数年2800名前後で推移している児童生徒数となります。これだけたくさんの児童生徒がいれば、出身地も様々で3年間過ごすだけで日本全国、世界にも人間関係の輪が広がっていきます。また、各学年の行事や運動会、体育祭での発表においても、発達段階に応じた迫力ある表現活動が保護者に好評をいただいています。さらに、小学部では、中庭に集まった2300人の歌声が響く毎月の音楽朝会も見所です。

一方で、児童数が多く体力テストは実施されていないため具体的な数値では比較できませんが、以下の要因から体力の維持向上が課題となっています。

第1にほぼ全ての児童がスクールバスと自家用車で登下校となっているため、歩くことが極端に少なくなっていることです。各コンドミニウムのロビー前から学校敷地内の駐車場までの送迎になりますので、実際に歩く距離と時間はほとんどない状態となっています。第2は運動、遊戯スペースの不足です。バスで一斉に下校するため、放課後校庭で遊ぶことはできない上に住居周辺に国内のような児童公園はなく、習い事やクラブチームで定期的に体を動かさない限り、運動する環境が極端に少ない状態となっています。



また、危機管理面では、治安が比較的安定しているものの近年デモやクーデター、爆発事案などの報道がありましたとおり、児童生徒および関係者の安全の確保が最重要課題となっています。在タイ日本大使館をはじめ、関係諸機関と連携し対応を協議するとともに、不測の事態に備えSMSなどで保護者への情報伝達を迅速に行えるよう計画的に訓練を重ねているところです。

平成28年度

埼玉県国際理解教育研究会 帰国報告会資料

バンコク日本人学校
25年度派遣 塩野 光洋



平成28年6月11日(土)

於：戸田市立芦原小学校